

1. 英語科 カリキュラムの特徴

本学のカリキュラムの科目群は、英語科目、教養科目、基礎科目、専門科目で構成されています。

「英語科に入ったのだから、英語の勉強だけをするのだと思っていた」等の声を新入生から聞くことがあります。実はこれは「英語を学ぶとは？」という大切な問題に関連することです。

言葉というものはそれだけで成り立っているものではなく、相手に何かを伝える、あるいは相手の言いたいことを理解するために使われます。つまり「英語を学ぶ」といっても、学んだ英語で「何を伝えるのか」「何を理解しようとするのか」という「中身」がなくては、いくら英語を学んでも真に自分の力にはなりません。また、分かりやすく相手に伝えるためには、「どのように物事をとらえ、それを頭の中で整理し、順序よく組み立てるか」という力が大切になってきます。さらに、相手と理解しあうためには「多様なものの見方や考え方を知り、受け入れることができる」という力も大切になってきます。

教養科目を履修することで、視野を広げ、体系だった学問に触れながら論理的なもののとらえ方を身につけていきます。まず日本語でものを考える基礎的な力を養うことは、英語を理解し、使いこなすためにも不可欠になります。

必修英語科目では、本学の建学の精神である「Women for Others, with Others」を反映した内容で、英語の読む、聴く、書く、話すという4技能をバランス良く学習し、複眼的思考や自律した学習能力を身につけます。ここでは、責任ある地球市民として知っておくべき内容について英語を手段として学び、調べたことや自分の意見を積極的に英語で表現することが求められます。また、クラス分けは英語力テストの結果により行われ、自分の力に合った英語教育を受けることができるように配慮されています。選択必修英語科目は、就職準備（「職場の英語」など）、専門科目への準備（「Academic Listening」など）、TOEICなどの技能試験対策などがあり、英語力、進路、興味などに合わせて選択できます。原則的に毎学期、必修と選択必修の英語をそれぞれ1科目ずつ、時間にすると1コマ90分の授業を週に4コマ、すなわち6時間の英語の授業を受けていきます。

英語の授業の時間が大切なことは言うまでもありませんが、英語力は授業だけでは決して身につけません。授業の予習・復習、課題等をしっかりとこなすという家庭学習が必須です。さらに、学内にはパソコンを使ったeラーニングシステムやイングリッシュ・カフェランション等、授業外で英語を学ぶ機会がさまざま提供されています。毎年TOEICの目標値を決めてその達成に努め、教員もそれを支援していきます。英語力をつけるには、いかに自主性をもって日常的に英語に触れるかが大きな鍵となります。

また、本学では英語力をつける授業は英語科目に限定されるとは考えていません。いくつかの専門科目やゼミナールは英語で講義が行なわれています。それらの授業では、講義を英語で聞き、教科書や資料を英語で読み、英語で議論し、英語でレポートを書く、といったように、実際に「英語を使って」学習していきます。泳ぎ方をいくら教わっても、自分で泳いでみなければ決して泳げるようにならないのと同様に、英語についていくら学んでも、自分が（すでに持っている知識をフル活用しながら）英語を使ってみなければ、英語が使いこなせるようにはなりません。英語で授業を行う科目が専門科目として提供されている理由はここにあります。

専門科目で提供されている科目は「異文化理解」「英米文学」「言語研究」「児童英語教育」というカテゴリーで括られていて、それぞれの「各論」に当たる講義が提供されています。各論に入る前に、まずはしっかりと「総論」的な全体像をとらえておいた方が理解しやすいので、基礎科目（～概論）が設けられています。あるカテゴリーに興味があれば、集中してコースとして学習することもできますし、カテゴリーに関わらず自分の関心にしたがって独自に関連付けて学習していくこともできます。ここでも教養科目や基礎科目を通じて、大学での勉強の仕方、学問的なものの考え方をしっかりと身につけておくことが、専門科目の内容をきちんと理解するためには必須になります。

このようなカリキュラムを順序よく、かつバランスよく履修することで皆さんが将来必要となる知識や生きていく力を養ってもらいたいと考えています。選択科目も多いので、履修の方法で迷うことがあれば、アドバイザーとよく相談しながら、長期的視点にたった履修計画を立てて下さい。

2. 授業科目の構成

授業科目の内容は以下のように構成されています。

- (1) 英語科目

		必修科目
		選択必修科目
- (2) 教養科目

		必修科目 (人間学)
		選択科目
- (3) 基礎科目

		選択科目
--	--	------
- (4) 専門科目

		必修科目 (ゼミナール)
		選択科目

必修科目 …… 必ず履修しなければいけない科目

選択必修科目 …… 指定された科目の中から選択して、所定の単位を必ず履修しなければならない科目

選択科目 …… 自由に選択して履修できる科目

3. 卒業に必要な科目・最低単位数

2年の修業年限を満たし、次の条件を満たすことにより、本学を卒業する資格が与えられます。(1年次で30単位以上修得できない場合は、卒業見込証明書が発行されない場合があります。)

<授業科目の構成からみる 卒業に必要な科目・単位数>

英語科目	14単位 (必修8単位, 選択必修6単位)
教養科目	16単位 (必修4単位, 選択12単位)
基礎/専門科目	36単位 (必修4単位, 選択32単位)
合計	66単位

<必修・選択別でみる 卒業に必要な科目・単位数>

必修	16単位 (英語科目8単位, 教養科目4単位, 専門科目4単位)
選択必修	6単位 (英語科目6単位)
選択	44単位 (教養科目12単位, 基礎科目/専門科目32単位)
合計	66単位

4. 標準配当表

【06年次生以前】

区分		1年次・春学期 第1 Semester (準備期)		1年次・秋学期 第2 Semester (発展期)		2年次・春学期 第3 Semester (応用期)		2年次・秋学期 第4 Semester (完成期)	
英語科目	必修 (8単位)	English Expression 1 English Comprehension 1 (いずれか)	2	English Expression 1 English Comprehension 1 (いずれか)	2	English Expression 2 English Comprehension 2 (いずれか)	2	English Expression 2 English Comprehension 2 (いずれか)	2
	選択必修 (6単位)	英語スキル*	2	英語スキル*	2	英語スキル*	2		
教養科目	必修 (4単位)	人間学 I	2	人間学 II	2				
	選択 (12単位)	選択科目 (12)							
基礎／ 専門科目	必修 (4単位)					ゼミナール I	2	ゼミナール II	2
	選択 (32単位)	選択科目 (32)							

【07年次生以降】

区分		1年次・春学期 第1 Semester (準備期)		1年次・秋学期 第2 Semester (発展期)		2年次・春学期 第3 Semester (応用期)		2年次・秋学期 第4 Semester (完成期)	
英語科目	必修 (8単位)	英語 I	2	英語 II	2	英語 III	2	英語 IV	2
	選択必修 (6単位)	英語スキル*	2	英語スキル*	2	英語スキル*	2		
教養科目	必修 (4単位)	人間学 I	2	人間学 II	2				
	選択 (12単位)	選択科目 (12)							
基礎／ 専門科目	必修 (4単位)					ゼミナール I	2	ゼミナール II	2
	選択 (32単位)	選択科目 (32)							

5. 履修上の注意

(1) 履修登録の上限

履修できる単位数の上限は1学期につき**24単位**です。

(2) 同一科目の重複履修

同一の授業科目は重複して履修することはできません。担当者が異なっても同じ科目名であれば、同一科目とみなされます。ただし、履修した科目が不合格で単位が修得できなかった場合は、もう一度履修することができます。(例)「基礎英語スキル[®] (リーディング)」の授業は春学期と秋学期で違う担当者 → 同じ科目名なので同一科目 → 春学期に単位が修得できた場合、秋学期は履修できない。

- 下記の科目は科目名が異なりますが、同一科目とみなされます。すでに単位を修得済みの場合、今年度の重複履修はできませんので注意すること。

【06年・07年次生】

2006・2007年度開講科目名	2008年度開講科目名
歴史	歴史学
国語表現法	日本語表現法
2006年度開講科目名	2008年度開講科目名
西洋研究A	西洋研究
標準英語スキル [®] (テスト対策)	標準英語スキル [®] (TOEIC対策)

(3) 受講者数制限科目

人数制限のある科目 (P. 57～P. 61の開講科目表の**備考欄に【人】**とある科目) は履修登録前に仮登録を行い、受講希望者多数の場合抽選を行います (詳細は「履修登録の手引き」を参照のこと)。その他の科目についても原則的には人数制限しませんが、初回の授業の受講希望状況によっては制限を行う場合もあります。第1～2回目の授業、その他掲示等に注意して下さい。

(4) 必修科目のクラス指定、ゼミ

必修科目は指定されたクラスを履修して下さい。2年次必修のゼミの選択・登録については1年次中に始まりますので掲示等に注意して下さい。

(5) 英語スキル[®]科目

原則として各学期に1科目までとします。

- ### (6) 教養科目の「体育理論・実技」は卒業要件単位として4単位まで算入されます。ただし、同一科目の重複履修はできません。(例) 春学期に「体育理論・実技2」の単位を修得済み→秋学期の「体育理論・実技2」は履修できません (体育理論・実技1か3は履修可能)。

- ### (7) 基礎科目の「ドイツ語」「フランス語」「スペイン語」「中国語」は卒業要件単位として4単位まで算入されます。

- ### (8) 履修希望者が極めて少数の場合、開講を取り消すこともあります。

6. 基礎科目／専門科目のコース制度

専門科目は「異文化理解」「英米文学研究」「言語研究」「児童英語教育」の4つの領域に分類されています。ある領域を集中してコースとして学ぶことも可能ですし、それぞれの領域から自由に科目を選択して履修することも可能です。

それぞれのコースの基礎科目（異文化理解：キリスト教文化入門又は異文化間コミュニケーション、英米文学研究：英文学概論、言語研究：言語学概論、児童英語教育：児童英語教育概論）4単位＋そのコースの関連科目を16単位以上、合計20単位以上修得した場合は、申請に基づき「コース修了証」を発行し、終了コース名を成績証明書に記載します。希望者は、2年次の秋学期の履修登録時に申請を行います（所定用紙）。

（注）【P. 59～P. 61の開講科目表を参考】

2つのコースどちらにでも算入できる科目は、1つのコース分には数えられません。2つのコースどちらにでも算入できる科目を、1回しか数えなくても2コース分の修了証が申請可能な場合は、申請書を2枚提出して下さい。

<各コースの概要>

異文化理解コース	英米文学研究コース	言語研究コース	児童英語教育コース
さまざまな国の文化や社会、歴史、考え方などについて学びます。	英語圏の文学を通してさまざまな表現手法や思想について学びます。	ことばの仕組みや使い方、バリエーションなどについて学びます。	子供たちへの英語の教え方を、理論と実践の両面から学びます。

*以下に各セメスターでの履修例を示します。あくまでも一例ですので、自己の目的や興味関心に従って個人の学習計画を立てて下さい。なお、開講学期や時間割は年度によってかわる場合があります。

<異文化理解コース(例)>

1年次・春学期 第1セメスター		1年次・秋学期 第2セメスター		2年次・春学期 第3セメスター		2年次・秋学期 第4セメスター	
人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2	ゼミⅠ	2	ゼミⅡ	2
必修英語	2	必修英語	2	必修英語	2	必修英語	2
英語スキル*	2	英語スキル*	2	英語スキル*	2	文化人類学	4
歴史学	4	情報概論	4	東洋研究A	4	比較政治制度論	4
マスメディア論	4	スペイン語Ⅰ	2	国際関係論	4	グローバル化研究	4
キリスト教文化入門	4	異文化間コミュニケーション 西洋研究	4 4	映画に見る文化	4		
合計 18 単位		合計 20 単位		合計 18 単位		合計 16 単位	
英語	4	英語	4	英語	4	英語	2
教養	10	教養	6	基礎/専門	14	基礎/専門	14
基礎/専門	4	基礎/専門	10				

2年間 計72単位

<英米文学研究コース(例)>

1年次・春学期 第1セメスター		1年次・秋学期 第2セメスター		2年次・春学期 第3セメスター		2年次・秋学期 第4セメスター	
人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2	ゼミⅠ	2	ゼミⅡ	2
必修英語	2	必修英語	2	必修英語	2	必修英語	2
英語スキル*	2	英語スキル*	2	英語スキル*	2	英語史	4
日本国憲法	4	哲学	4	体育理論実技3	2	西洋研究	4
体育理論実技2	2	フランス語Ⅰ	2	フランス語Ⅱ	2	ヨーロッパ現代史	4
英文学概論	4	演劇研究	4	小説研究	4		
		現代美術	4	映画と文学	4		
合計 16 単位		合計 20 単位		合計 18 単位		合計 16 単位	
英語	4	英語	4	英語	4	英語	2
教養	8	教養	6	教養	2	基礎/専門	14
基礎/専門	4	基礎/専門	10	基礎/専門	12		

2年間 計70単位

<言語研究コース(例)>

1年次・春学期 第1セメスター		1年次・秋学期 第2セメスター		2年次・春学期 第3セメスター		2年次・秋学期 第4セメスター	
人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2	ゼミⅠ	2	ゼミⅡ	2
必修英語	2	必修英語	2	必修英語	2	必修英語	2
英語スキル [※]	2	英語スキル [※]	2	英語スキル [※]	2	第二言語習得	4
社会学	4	法学	4	音声学	4	英語史	4
心理学	4	言語学概論	4	社会言語学	4	日本語教授法	4
ドイツ語Ⅰ	2	異文化間コミュニケーション	4	日本語学	4		
合計 16 単位		合計 18 単位		合計 18 単位		合計 16 単位	
英語	4	英語	4	英語	4	英語	2
教養	10	教養	6	基礎/専門	14	基礎/専門	14
基礎/専門	2	基礎/専門	8				

2年間 計68単位

<児童英語教育コース(例)>

1年次・春学期 第1セメスター		1年次・秋学期 第2セメスター		2年次・春学期 第3セメスター		2年次・秋学期 第4セメスター	
人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2	ゼミⅠ	2	ゼミⅡ	2
必修英語	2	必修英語	2	必修英語	2	必修英語	2
英語スキル [※]	2	英語スキル [※]	2	英語スキル [※]	2	初等教育	4
教育学	4	音楽	4	児童英語教育演習	4	児童心理学	4
社会福祉入門	4	児童英語教育概論	4	児童英語教材論	4	第二言語習得	4
日本語表現法	4	キャリアプランニング [※]	4	世界の教育	4		
合計 18 単位		合計 18 単位		合計 18 単位		合計 16 単位	
英語	4	英語	4	英語	4	英語	2
教養	10	教養	6	基礎/専門	14	基礎/専門	14
基礎/専門	4	基礎/専門	8				

2年間 計70単位

7. インデペンデント・スタディ

既設の科目で扱われている内容をより深く理解するため、あるいは現在開講されていない科目のテーマについて自ら学ぶため、学生が主体的に指導教員のもとで研究し、研究報告書として成果をまとめ、評価を受けることにより、専門科目として2単位を付与する制度です。

登録を希望する学生は自分の研究テーマに相応しい指導教員（専任教員に限る）を選び、登録前に承諾を受けます。登録は在学中に1回限りとします。研究テーマについては、登録する学期の前の学期中に教員と相談することが望まれます。なお、各学期につき一人の教員が指導する学生は原則2名以内です。

<登録までの手続き>

- ① 登録を希望する学期までに研究テーマを決め、指導教員を決定します。
- ② 「研究計画書」を作成し、指導教員へ提出します。指導教員は教務委員長、学科長とともにその計画書を審査します。
*研究テーマは指導教員と相談の上決定します。
- ③ 指導教員と教務委員長及び学科長の許可を受けた上で、春学期あるいは秋学期の履修登録期間に登録を行います。

<履修～評価>

- ① 学生は登録した学期の期間中、定期的に担当教員に対し進捗状況を報告し、指導をうけて下さい。
- ② 学生は登録した学期末までに「研究報告書」を担当教員に提出して下さい。最終的な研究報告書は十分な研究調査に基づいた論文の体裁をとっている必要があります。各学期末（秋学期登録者は1月、春学期登録者は7月）に開催される「公開研究発表会」で研究成果を教員・学生の前でプレゼンテーションした上、評価を受けます。
- ③ 履修を中止する場合は、登録した学期の履修中止期間に行ってください。

8. 開講科目表

英語科目

授業科目名	単位			開講期・授業回数 ◎=週2 ○=週1 ●=週1, 2限連続		履修 年次	担当者	備考
	必修	選 必	選 択	春 学期	秋 学期			
英語Ⅰ	2			◎		1年次	M. Andrade, T. Gould, K. Williams, C. Oliver, 平野, 飯田, 永野, 近藤, 神谷, 岩崎	クラス指定
英語Ⅱ	2				◎	1年次	M. Andrade, T. Gould, K. Williams, C. Oliver, 平野, 飯田, 永野, 近藤, 神谷, 岩崎	クラス指定
英語Ⅲ	2			◎		2年次	M. Andrade, C. Oliver, K. Williams, J. Dizon, G. Freddes, J. Hirai, A. Miller, 飯田, 池, 岩崎, 深澤, ローレンス桜井	クラス指定
英語Ⅳ	2				◎	2年次	J. Dizon, G. Freddes, J. Hirai, A. Miller, E. Doman, K. Crown, 近藤, 深澤, ローレンス桜井, 池, 服部, 石原	クラス指定
基礎英語スキルズ (旅行の英語)		2		◎		1・2 年次	K. Crown	[人]
基礎英語スキルズ (生活の英語)		2			◎	1・2 年次	E. Doman	[人]
基礎英語スキルズ (リスニング)		2		◎		1・2 年次	石原	[人]
基礎英語スキルズ (文法)		2		◎	◎	1・2 年次	(春)石原 (秋)深澤	[人]
基礎英語スキルズ (ライティング)		2			◎	1・2 年次	石原	[人]
基礎英語スキルズ (リーディング)		2		◎	◎	1・2 年次	(春)ローレンス桜井 (秋)池	[人]
基礎英語スキルズ (語彙)		2		◎		1・2 年次	深澤	[人]
標準英語スキルズ (生活の英語)		2		◎		1・2 年次	E. Doman	[人]
標準英語スキルズ (旅行の英語)		2			◎	1・2 年次	K. Crown	[人]
標準英語スキルズ (職場の英語)		2		◎		1・2 年次	J. Hirai, K. Crown	[人]
標準英語スキルズ (メディアの英語)		2			◎	1・2 年次	A. Marikkar	[人]
標準英語スキルズ (文法・語彙)		2		◎	◎	1・2 年次	服部	[人]
標準英語スキルズ (ライティング)		2		◎	◎	1・2 年次	J. Dizon	[人]
標準英語スキルズ (リーディング)		2		◎	◎	1・2 年次	(春)服部, E. Doman (秋)J. Hirai	[人]
標準英語スキルズ (パブリックスピーキング)		2		◎		1・2 年次	S. Howell	[人]
標準英語スキルズ (ディスカッション)		2			◎	1・2 年次	A. Miller	[人]
標準英語スキルズ (アカデミックスクリング)		2		◎		1・2 年次	G. Freddes	[人]
標準英語スキルズ (編入対策)		2		◎		1・2 年次	平野	[人]
標準英語スキルズ (TOEIC対策)		2			◎	1・2 年次	ローレンス桜井	[人] 注 P. 54参照
上級英語スキルズ (ライティング)		2		◎		1・2 年次	A. Miller	[人]
上級英語スキルズ (ディベート)		2			●	1・2 年次	S. Howell	[人]

教養科目

授業科目名	単位			開講期・授業回数 ◎=週2 ○=週1 ●=週1, 2限連続		履修 年次	担当者	備考
	必修	選 必	選 択	春 学期	秋 学期			
人間学Ⅰ	2			○		1年次	羽場, R. M. Cortés, 榊田, 小林, 岩崎, 宮越	クラス指定
人間学Ⅱ	2				○	1年次	羽場, R. M. Cortés, 榊田, 小林, 岩崎, 宮越	クラス指定
歴史学			4		◎	1・2 年次	森下	注 P.54参照
哲学			4		◎	1・2 年次	R. M. Cortés	
女性と哲学			4				2008年度休講	
宗教学			4	◎	◎	1・2 年次	小林	
音楽			4		◎	1・2 年次	北村	
女性学			4				2008年度休講	
社会学			4	◎	◎	1・2 年次	島	
日本国憲法			4	◎		1・2 年次	高野	
法学			4		◎	1・2 年次	高野	
教育学			4	◎	◎	1・2 年次	杉村	
政治学			4				2008年度休講	
経済学			4	◎	◎	1・2 年次	白瀬	
社会福祉入門			4	◎		1・2 年次	森澤	
マスメディア論			4	◎	◎	1・2 年次	(春) 蔡 (秋) 千	
情報概論			4		◎	1・2 年次	駒形	
自然科学入門			4				2008年度休講	
数学			4	◎		1・2 年次	加藤	
心理学			4	◎		1・2 年次	根岸	
体育理論・実技 1			2	○	○	1・2 年次	木皿	[人]
体育理論・実技 2			2	○	○	1・2 年次	小澤	[人]
体育理論・実技 3			2	○	○	1・2 年次	小澤	[人]

基礎科目

授業科目名	単位			開講期・授業回数 ◎=週2回 ○=週1回		履修年次	担当者	備考
	必修	選必	選択	春学期	秋学期			
異文化理解コース関連科目（基礎科目）						各コースの基礎科目は1年次履修が望ましい		
キリスト教文化入門			4	◎		1・2年次	輪講 (コーディネーター：小林)	
異文化間コミュニケーション			4		◎	1・2年次	C. Oliver	*言語研究コースにも算入可
英米文学研究コース関連科目（基礎科目）						各コースの基礎科目は1年次履修が望ましい		
英文学概論			4	◎	◎	1・2年次	(春)飯田 (秋)平野	
言語研究コース関連科目（基礎科目）						各コースの基礎科目は1年次履修が望ましい		
言語学概論			4	◎	◎	1・2年次	(春)藤田 (秋)近藤	
児童英語教育コース関連科目（基礎科目）						各コースの基礎科目は1年次履修が望ましい		
児童英語教育概論			4		◎	1・2年次	藤田	
ドイツ語 I			2	◎	◎	1・2年次	堤	[人]
ドイツ語 II			2	◎		1・2年次	堤	[人]ドイツ語 I 既習者か、それに相当する者
フランス語 I			2	◎	◎	1・2年次	横田	[人]
フランス語 II			2	◎		1・2年次	横田	[人]フランス語 I 既習者か、それに相当する者
スペイン語 I			2	◎	◎	1・2年次	A. Yáñez	[人]
スペイン語 II			2	◎		1・2年次	A. Yáñez	[人]スペイン語 I 既習者か、それに相当する者
中国語 I			2	◎	◎	1・2年次	廣重	[人]
中国語 II			2	◎		1・2年次	廣重	[人]中国語 I 既習者か、それに相当する者
日本語表現法			4	◎	◎	1・2年次	宮崎	[人] 注 P. 54参照
キャリア・プランニング			4		◎	1・2年次	輪講(コーディネーター：杉村)	同窓会寄附講座
留学準備			2	◎		1・2年次	神谷	夏の短期語学講座申込者のみ
留学準備			2		◎	1・2年次	神谷	春の短期語学講座申込者、他

専門科目

授業科目名	単位			開講期・授業回数 ◎=週2回 ○=週1回		履修年次	担当者	備考
	必修	選必	選択	春学期	秋学期			
ゼミナール I	2			○		2年次	M. Andrade, 羽場, 高野, 平野, 飯田, 近藤, 永野, 神谷, 岩崎, K. Williams, 宮崎, 杉村, T. Gould, C. Oliver, 小林	ゼミ I とゼミ II は同一教員を履修
ゼミナール II	2				○	2年次		

専門科目（続き）

授業科目名	単位			開講期・授業回数 ◎=週2回 ○=週1回		履修 年次	担当者	備考
	必修	選 必	選 択	春 学期	秋 学期			
異文化理解コース関連科目								
東洋研究A			4	◎		1・2 年次	田畑	
東洋研究B			4		◎	1・2 年次	田畑	
西洋研究			4		◎	1・2 年次	森下	【隔年開講】 注 P.54参照
日本文化			4				2008年度休講	
英米史			4				2008年度休講	【隔年開講】
ヨーロッパ社会史			4	◎		1・2 年次	鍋谷	
ヨーロッパ現代史			4		◎	1・2 年次	鍋谷	
比較社会史			4		◎	1・2 年次	森下	
国際関係論			4	◎		1・2 年次	高野	
文化人類学			4		◎	1・2 年次	C. Oliver	
現代美術			4		◎	1・2 年次	G. Freddes	
映画に見る文化			4	◎		1・2 年次	K. Williams	
世界の教育			4	◎		1・2 年次	杉村	*児童英語教育 コースにも算入可
グローバルリテラシー 研究			4		◎	1・2 年次	M. Andrade	【隔年開講】
言語とリテラシー教育			4				2008年度休講	*言語研究コースに も算入可 【隔年開講】
個人と人権			4				2008年度休講	【隔年開講】
比較政治制度論			4		◎	1・2 年次	高野	【隔年開講】
英米文学研究コース関連科目								
英語英米文学入門			4				2008年度休講	
アメリカ短編小説研究			4				2008年度休講	
英詩研究			4				2008年度休講	
演劇研究			4		◎	1・2 年次	飯田	
小説研究			4	◎		1・2 年次	永野	
アメリカ文学史			4				2008年度休講	【隔年開講】
映画と文学			4	◎		1・2 年次	平野	【隔年開講】
翻訳演習			4	◎		1・2 年次	永野	
(英語史)			4		◎	1・2 年次	永野	

専門科目（続き）

授業科目名	単位			開講期・授業回数 ◎=週2回 ○=週1回		履修年次	担当者	備考
	必修	選必	選択	春学期	秋学期			
言語研究コース関連科目								
社会言語学			4	◎		1・2年次	神谷	
音声学			4	◎		1・2年次	池	*児童英語教育コースにも算入可
日本語学			4	◎		1・2年次	宮崎	
語用論			4				2008年度休講	【隔年開講】
英語史			4		◎	1・2年次	永野	*英米文学研究コースにも算入可
通訳演習			4	◎		1・2年次	近藤	【隔年開講】
日本語教授法			4		◎	1・2年次	宮崎	
(異文化間コミュニケーション)			4		◎	1・2年次	C. Oliver	
(言語とリテラシー教育)			4				2008年度休講	【隔年開講】
(バイリンガル教育)			4	◎		1・2年次	藤田	
(第二言語習得)			4		◎	1・2年次	T. Gould	
児童英語教育コース関連科目								
バイリンガル教育			4	◎		1・2年次	藤田	*言語研究コースにも算入可
初等教育			4		◎	1・2年次	杉村	
児童心理学			4		◎	1・2年次	根岸	
第二言語習得			4		◎	1・2年次	T. Gould	*言語研究コースにも算入可
児童英語教材論			4	◎		1・2年次	井上	
児童英語教育演習			4	◎		2年次	藤田	
(世界の教育)			4	◎		1・2年次	杉村	
(音声学)			4	◎		1・2年次	池	
インデペンデント・スタディ			2			1・2年次	担当教員	詳細はP. 56参照
海外短期語学講座			2			1・2年次	短期留学制度	詳細はP. 46参照

【06年次生以前の必修科目新旧対応表】

2007年度以前に修得できなかった科目	2008年度履修が必要な科目
English Comprehension 1	英語Ⅰ 又は 英語Ⅱ
English Expression 1	英語Ⅰ 又は 英語Ⅱ
English Comprehension 1 と English Expression 1 両方	英語Ⅰ と 英語Ⅱ 両方
English Comprehension 2	英語Ⅲ 又は 英語Ⅳ
English Expression 2	英語Ⅲ 又は 英語Ⅳ
English Comprehension 2 と English Expression 2 両方	英語Ⅲ と 英語Ⅳ 両方